



取締役 執行役員
勝川 四志彦



代表取締役 副社長執行役員
奥石 房樹



代表取締役社長
山口 貢



代表取締役 副社長執行役員
柴田 耕一郎



取締役 執行役員
永良 哉



社外取締役
伊藤 ゆみ子

お客様や社会にとって “かけがえのない 存在”であり続ける



社外取締役
北畑 隆生



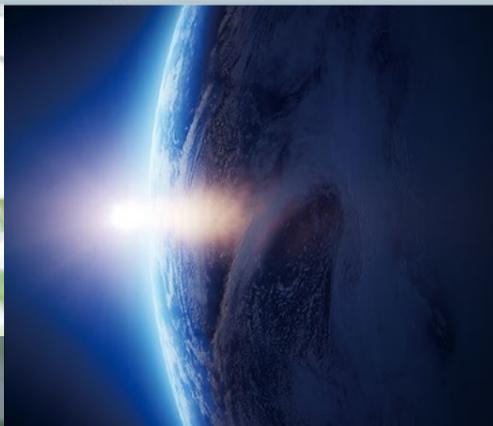
社外取締役
馬場 宏之



取締役 (監査等委員)
石川 裕士



社外取締役 (監査等委員)
河野 雅明



社外取締役 (監査等委員)
宮田 賀生



取締役 (監査等委員)
対馬 靖



社外取締役 (監査等委員)
三浦 州夫

魂を込める

サステナビリティ経営

安全・安心で豊かな暮らしの中で、今と未来の人々が夢や希望を叶えられることが、KOBELCOグループの願いです。KOBELCOグループは、100年を超える歴史の中で培った個性ある技術を土台に、サステナビリティ経営に「魂を込める」取組みを加速していきます。



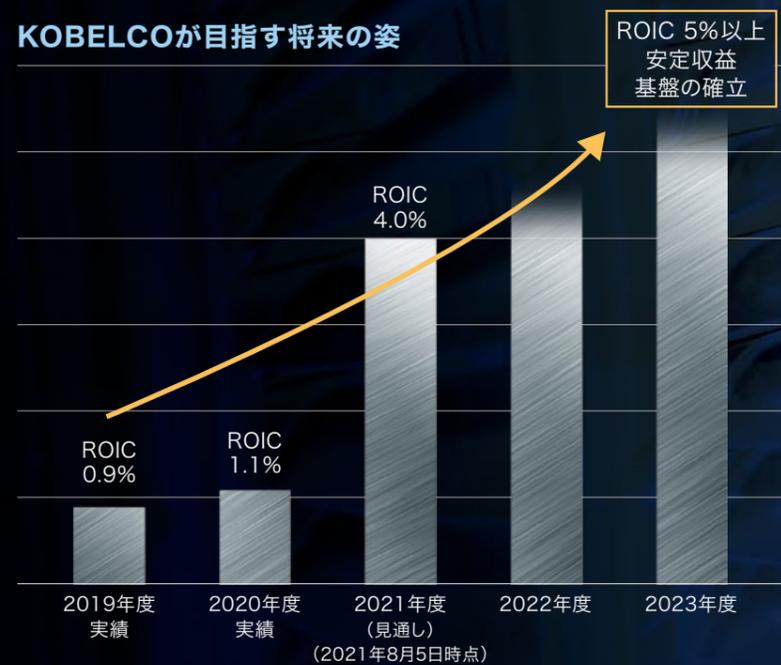
グループ企業理念	「KOBELCOの使命・存在意義」の実行を通じて実現したい社会・未来
KOBELCOが実現したい未来	安全・安心で豊かな暮らしの中で、今と未来の人々が夢や希望を叶えられる世界。
KOBELCOの使命・存在意義	KOBELCOグループの社会的存在意義であり、果たすべき使命 個性と技術を活かし合い、社会課題の解決に挑みつづける。
KOBELCOの3つの約束	KOBELCOグループの社会に対する約束事であり、グループで共有する価値観 1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します 2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます 3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します
KOBELCOの6つの誓い	「KOBELCOの3つの約束」を果たすため、品質憲章とともに全社員が実践する行動規範 1. 高い倫理観とプロ意識の徹底 2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献 品質憲章 3. 働きやすい職場環境の実現 4. 地域社会との共生 5. 環境への貢献 6. ステークホルダーの尊重

取り戻す

安定収益基盤の確立

外部環境に左右されることのない“稼ぐ力”を「取り戻す」KOBELCOグループは、安定収益基盤の確立に向け、不退転の覚悟で取り組み、成長軌道に乗り持続的な成長を遂げる企業への進化を目指します。

KOBELCOが目指す将来の姿



ROIC 8%以上を
安定的に確保し、
持続的に成長する
KOBELCOへ

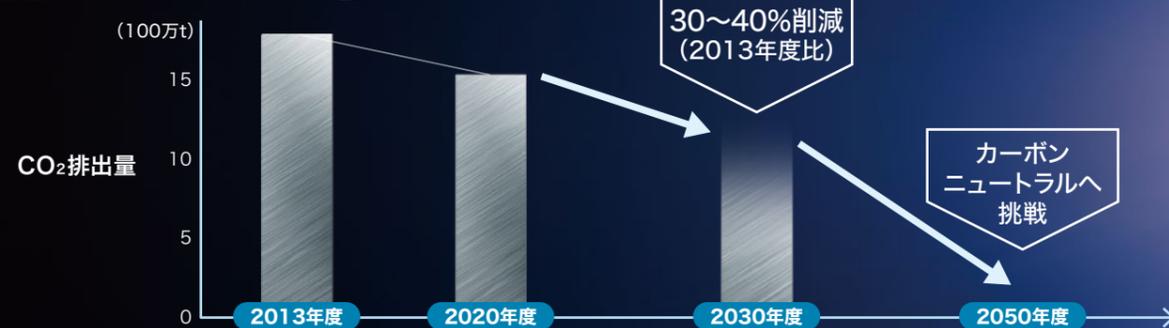
↑
事業活動を通じた
社会課題の解決と
経済価値の創出

未来に挑む

カーボンニュートラルへの挑戦

カーボンニュートラルへの挑戦は、KOBELCOグループの課題であると同時に大きなビジネスチャンスです。グループ内の技術を融合させた生産プロセスでのCO₂削減、当社グループ独自の技術・製品・サービスによるCO₂排出削減貢献を通じて、カーボンニュートラルな社会の実現に貢献していきます。

生産プロセスにおけるCO₂削減



技術・製品・サービスによるCO₂排出削減貢献



KOBELCO を変える



新たな中期経営計画で掲げた目標達成に 力を注ぐことで、新生KOBELCOに魂を込める

2018年に社長に就任してから3年が経ちました。社長就任のきっかけとなった品質事案の再発防止に向けて、私は本気でKOBELCOを変えようと決意しました。本当に変わったと言われるためには、単に品質事案を解決するだけでなく、その根本原因となった企業風土から変えていかなくてはなりません。これまでの風土は、いわば“たこつぼ”でした。素材系・機械系・電力がそれぞれの事業部門の中に閉じこもり、KOBELCOグループとして何を指すのかという視点が抜け落ちていました。

部門の壁を取り払う手段のひとつとして、企業理念を明文化するプロジェクトを立ち上げました。その際重視したのは、ボトムアップで作り上げるという制定プロセスです。自分たちが作り上げたものには魂が込められます。この制定プロセスを経て作り上げた企業理念は、その後の対話プロセスを通じて社内における「認知」と「共感」につながり、新たな組織文化として定着しはじめています。その効果もあり、最近では部門を越えて議論し協力し合うオープンな組織に変わってきています。

KOBELCOグループは多様な技術と人材を有しています。部門を越えて、さまざまな技術や知見を共有し組み合わせることによって、新たな価値創造の機会が生まれます。今般、私たちは、グループ企業理念に掲げている目指す姿・ビジョンを実現するため、マテリアリティを特定しました。「グリーン社会への貢献」をはじめとして非常に重要な課題が並びますが、これらの課題を解決することが、KOBELCOグループの飛躍につながると確信しています。

しかしその一方で、2016～2020年度グループ中期経営計画で課題として残った不安定な収益基盤という厳しい現実が目の前に立ちはだかっています。中長期の価値創造を確かなものにするには、まずは新中期経営計画(2021～2023年度)に基づいて安定収益基盤の確立を成し遂げ、2023年度にはROIC5%以上の収益レベルを確保することが必要です。

新中期経営計画で掲げた「安定収益基盤の確立」と「カーボンニュートラルへの挑戦」の2つは、KOBELCOグループが企業として存続・発展していくうえで市場から求められる最低限の条件であると認識しており、これを達成するのが私の使命であると考えています。

代表取締役社長

山口 貢